

1 未来へつなぐ「知」の収集・保存、利活用の促進

(1) 「知」のアーカイブ化計画の立案・実行

- 市制 100 周年を迎えるに当たり、まちづくりに貢献した市民等の本市発展の記憶を、民間事業者のインタビュー手法などのノウハウを活用して収集・保存します。

(2) 本市の歴史的文書の整理・保存など

- 本市の歴史的な資料の整理・保存について検討します。

(3) 「知」の提供プラットフォーム(基盤)の構築(「知」の見える化)

- 地域情報をインターネット上で閲覧できるシステムを構築する。

(4) デジタル・アーキビスト等の専門人材の養成

- 中長期的な視点に立脚した人材育成方針を定め、デジタルの知識や技能を有するデジタル・アーキビスト等の専門人材の養成について検討します。

(5) 「知」の発掘などに関する市民協働体制の構築

- 市民と協働した「知」の収集体制について検討します。

(6) 学習成果などの「市民の知」の発表などに対する支援

- 地域の歴史などについて、自主的・主体的に研究などを行っている団体への支援内容に関する調査について検討します。

(7) その他の取り組み

- 資料費を有効に活用し、図書館全体としての計画的な収集、適正な管理、迅速な提供及び基本的な資料提供サービスの充実に努めます。

○ 千葉市図書館ビジョン 2040 の項目

● 千葉市サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目

2 「知」をつなげるプラットフォーム(基盤)などの構築(多様な主体による知の創出・活用)

(1) SNS(Social Networking Service)を活用した知識の交流を促す仕組みの構築

- SNS を活用した知的な交流の場の設定について検討します。

(2) 学びや調査研究を支援する知的な交流の場の提供

- 公衆無線 LAN(Wi-Fi)環境が整った、市民が集まって学べるスペースや市民間で議論ができるミーティングルームなどの整備を検討します。

(3) 市民と知識、知識と知識をつなぐ活動の推進

- 市民の課題解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図ります。
- 出会いのある図書館利用の促進のため、講座や企画展示などによる情報発信をします。

(4) 生涯学習センター・公民館等との連携・協力の強化

- 市内の生涯学習施設、教育機関、公的機関、類縁機関等と連携し、資料の収集や提供を行うとともに、各種事業の実施に際して相互に事業協力を行います。
- 公民館図書室のサービス向上のため、選書、レファレンス、研修等の支援を行います

(5) その他の取り組み

- 図書館の利用を促進するため、地域での広報活動や、各種メディアを活用した広報活動を積極的に実施します。

○ 千葉県図書館ビジョン 2040 の項目

● 千葉県サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目

3 未来を担う子どもたちの読書環境の充実

(1) 計画的なこどもの読書活動の推進

- こどもたちがあらゆる機会にあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、令和2年度に千葉市子ども読書活動推進計画(第4次)を策定します。

(2) こどもたちが利用しやすい読書環境の整備・充実

- 子どもの本を知り、本を手渡す術を知るために、必要な研修を実施するとともに、講師として口座事業が実施できるよう、人材の育成を図ります。

(3) 子どもの本の充実

- すべての子ども(乳幼児から青少年)の読書活動を支える資料の充実を図り、読書環境の整備に努めます。

(4) こどもや保護者を対象とした取り組みの充実

- 本の楽しさを知り、話し手と聞き手のコミュニケーションを図れるおはなし会やわらべうたの会を、定期的実施するほか、家族や親子で楽しめる会も開催し、家庭での読書活動につなげます。
- 子どもたちが、図書館を十分活用し、必要な情報を収集できるよう、図書館の見学会や資料の検索講座などを行うほか、保護者などに対し、子どもの読書の意義及び目的を啓発します。
- 親子の読書活動を推進するため、読んだ本の記録や感想を書き込める「どくしょてちょう」を未就学児(5歳)、小学校1年生から6年生に配布します。

(5) 移動図書館車の活用

- 移動図書館車が学校に訪問することで、こどもたちが学校にいながら本市図書館の図書資料に触れる機会の提供について検討します。

(6) 学校・学校図書館との連携・協力の推進

- 子どもの読書活動を継続的に推進するために、学校と連携し児童・生徒の図書館見学や職場体験を積極的に受け入れるとともに、図書館から職員が学校に出向いての利用案内やおはなし会等、学校への団体貸出を行います。

(7) 「千葉市民の知」の学校教育での活用

- 収集した「千葉市民の知」を授業で活用する際の支援について検討します。

○千葉市図書館ビジョン 2040 の項目

●千葉市サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目

(8) その他の取り組み

- 地域おはなしボランティアの育成を図り、協働して、学校、地域、施設などでの活動を進めます。
- 読書習慣を形成する上で、大きな役割を担う家庭での読書活動をすすめるための「ファミリーブックタイム」運動を推進します。また、地域で読書活動を進める地域・家庭文庫などを支援します。
- 子育て支援施設、生涯学習施設その他で行われる子どもの読書活動推進にかかわる事業について、連携・協力します。
- 図書館業務の体験学習の機会を設けます。また、司書過程の学生の受け入れ、インターンシップ実習、ボランティア体験の受け入れを行います。
- 図書館が地域の交流の場となるように、子ども読書まつりにおける各種イベントなど、市民の企画・参加による事業を実施します。

○千葉県図書館ビジョン 2040 の項目

●千葉県サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目

4 誰もが利用しやすいサービス環境の実現

(1) 利便性の高い場所へのサービスポイントの設置

- 土気図書室を改修し、子どもたちが読書に親しむ場や、予約本の受取返却などのサービスを提供します。
- 図書館施設が近くにない地域などに対し、移動図書館車による図書館サービスを提供します。

(2) 開館日・開館時間の最適化

- 利用者の利便性を高めるため、地域の実情に即した開館日・開館時間の最適化について、引き続き検討します。

(3) インクルーシブ(包括的)な利用環境の整備

- 「図書館利用に何らかの障害がある人すべて」に対して、資料を利用する上での障害を、対応機器の整備や人的配慮などにより取り除き、情報提供に努めます。
- 日本語以外の言語を母語とする市民のニーズを把握し、中央図書館を中心に、外国語資料の収集・提供や地域の中で生活する上で必要な情報の提供に努めます。

(4) 自動貸出機などによる貸出サービスのセルフ化

- 利用者の利便性を高めるため、ICT を活用したサービスを提供します。(IC タグの導入等)

(5) 情報環境の整備

- 利用者の利便性を高めるため、ICT を活用したサービスを提供します。(公衆無線 LAN(Wi-Fi)の拡充に向けた検討)

(6) 電子書籍の調査研究

- 図書・雑誌・新聞に代表される印刷媒体の資料だけでなく、インターネット等による電子媒体を組み合わせた情報提供ができるよう研究、検討します。また、動画による情報発信について検討します。

(7) 利便性の高い利用認証システムの調査研究

- 利用者にとって、見やすく、使いやすい図書館環境を整えるとともに、さまざまな危機事案に適切に対応できる体制を整えます。
- 市民の図書館利用を促進するため、積極的な広報活動を行います。
- よりよい図書館運営を図るため、多くの市民のご意見を伺う機会を設けます。

○千葉県図書館ビジョン 2040 の項目

●千葉県サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目

5 新たな「知の拠点」づくりに向けた運営基盤の再構築

(1) 図書館職員の知識経験を活かす効果的な配置と人材の育成

● 図書館サービスをはじめ、行政分野や地域の課題にも精通し、高度で的確なサービスを提供できる専門職員の確保と育成に努めます。

(2) 中央図書館の機能強化

○ 司書等の専門分野を特定するとともに、その分野における能力開発を進め、市民等からの高度な情報ニーズに的確・迅速に対応できる人材、知的交流をファシリテートできる人材の養成について検討します。

(3) 地区図書館・地区図書館分館の再編

○ 地区図書館・地区図書館分館の再編について検討します。

(4) 図書館資料等の保存・物流機能の一元化

○ 図書資料の物流機能の拡大や施設価値の最大化のため、図書資料の保管機能と物流機能を一元的に担う新たな拠点を整備することについて、図書館利用者や地元住民などの意見を聴取しながら、具現化に向けて検討します。

(5) 図書館施設の老朽化への対応

○ 「千葉市公共施設等総合管理計画」が示す基本方針及び資産の総合評価の結果の見直し方針などを踏まえ、利用ニーズの動向や地域に必要な「知の拠点」としての機能などを整理した上で、学校等との複合化や施設規模のコンパクト化、拠点性のある商業施設への移転の可能性などについて検討を行い、適切に対応します。

(6) 民間機能の活用

○ サービスポイントとして再整備した施設の運営については、庁内関係部署や関係機関との協議を行った上で、民間機能を活用した運営について慎重に検討します。

○ 千葉市図書館ビジョン 2040 の項目

● 千葉市サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目

(7) 運営資金を確保する新たな手法の検討

- 運営資金の確保に努めるため、引き続き予算対応を行うとともに、寄付金受入や募金箱の設置及び雑誌カバーを活用した新たな広告事業等による広告料、地元企業などからの支援やクラウドファンディングなど、新たな手法について検討します。

(8) 関係機関との連携

- 市民の持つ様々な技術、知識、経験をボランティアとして、図書館サービスに資することで、豊かな体験ができる活動の場を増やします。
- 図書館相互間、地域の生涯学習施設、公的機関、各種団体などとの協力を推進します。

(9) 施設名称の検討

- 市民と「知の拠点」との距離感を縮め、また、「知」の創出への参加意識を醸成するため、すべての市民の「知の拠点」に相応しい名称や愛称などについて検討します。

(10) その他の取り組み

- 図書館運営に多様な市民の意見を反映させるため、図書館協議会に、公募による委員を引き続き登用します。

○千葉県図書館ビジョン 2040 の項目

●千葉県サービスプラン 2010 からの引継ぎ項目